木草願書

215
2057
32
準貴
12

爰に信濃の国の住人木曽
の冠者義仲を平家をせ
めむそのために又万余騎を
率し信濃の国を立て
越後の国にいたりしハ木曽
の行ひさるハ平家より先て
てあつまるとあくし山と立て
越中のひ経くへあつめハ宮ら
くあひえ合戦なくそひう
むそん但くあひえ合戦
た勢の多少によるなり
いにも軒つくされハ言ハ
勢と七手にわけつく帝く

よふをむかふへし　其内数文
十郎義人行家に二万金銭
とらし浮きよの事へ取り
かめつくへそ備へられ候
於百万金銭をとらせてふまう
浮くそ此六郎親忠に七千
金銭を持つへく小く経坂へ
そむかられきうかし右高
梨山田の次郎是も七千
金銭黄くろ坂へそむきつき
きろ梅にの次郎か○之八又
千金銭わくくりをれたら
此らし後へ問いられなり給い

こや又千金銭まいらせ
くそのきこえやしやうれしと小
引くを亡き井の四郎並平は
六千金銭をねらさくへもし
内湯をとらへひれを林上
浮をとる木売物ハ千万金銭
小く黒坂の小此を心ましとや
へたわるとしてそみたれ森
小浮をとる木實物をそら
てにもさしとされふなて
よとそさしとされそり抜
立られきうまた月十日の色乃
割かりふ黒坂の峰へ羽を

うちわきをたて経二十年なかれ
けり一度にさんとおもひて
こり平家をかたくとおもひ
てさみ山にこもり源氏
の将を随従して河かひて
しの大将や実は山まきんそ
に名を残りふしてかうめく
ゆゑかくよも没はさしるの
まうひて、いえんとまにまゐろ
をれ不審きいはんと陳をとれ
やそて大将さんとおりうまく
山縁より陳をかりうるに
本宮はやりて此社領をあるに此

社に陳をとりて宝前をこえんと
見ゆれしそれはかのをみぬに
あくりて　夜山此夜のみより
此木のうちよりあやしき垣け
のえそてかくそれ若宮の社
壇ありて前に石居そ立にまう
里の人をめされくあまま給
立まし御をてはなかのまへは
なる神をあらはし給ふ伊勢
にくと四所へて八幡大菩薩
とあらはれまして当社の敷は八幡
宮とみえたるやりとまし
本宮をまもりて其書には女

いふものいとおほく侍りけり
さいそうひは義仲当家新八幡
の御宝前にちかひをさゝけて
合戦をとけんとおもふを家
めしくさうたうひめくうちわう
とれれつゝしさうふよんつくか
はうは後代のためなり又は当座
はのまふも執書を一筆かい
て給いてせんとおほしめいて
ありへ貴　くめいはむねをうけ
はなそてるよろひもとんておりり
あひしれおかうよろひを小硯とり
おしたゝみ紙をしひろを執書

とうもとはまろうかくめい
かその日れ学家来にかうちんの
出雲小輔一絶自の継り
く後法のそれそやすてあら
こめとそれ弓をとてさうしく
木曽殿の御前にひさまつい
てく是を書あけられ文武
二たれ(ゝ)かたさくなきそかれとそ
見えける　後にかくめいは
た南都にさうらひし時ある会
のをり三井寺をたのみて牒
状せらけし時三井寺るなんな
くきうの牒に南都へてう状

ともをほ悦と大衣せんさあ
けるく殺もんきうかうせれ
きうに清盛と平氏のさう
かう武家のちんかいをかうく
その名をあらし名人かきい
いそかう書い検才へ式七形書
おいをく　帰命頂礼八幡
大菩薩い日域鎮護の神ん
しも累世明君にあうそうろ
宝祚を守らんうぬぬの蒼生
をつきせんうぬめに三州の令
宿を許うりし二不の權扉を
をし守を給へり宴王発い錦ん

まうこれはき平相国とい代々の
おもくし四海を秋まくさう万
民を悩乱せしむ是く仏法の
ゆく　王法のうれ非り義
仲茅しくをちうるの家にも
あれまいうふきうれちりを
ゆくひそうふ殺なうあくをえ
おふ志きうえりみるふゆくい
を軍とえたふ殺うせ州を
武家ふなくらう後を小式
忠いとおこさむとおもへる
おさえ武徳ありそきんと
さらせんつまやすうれ陳をね

士卒はおもくせ給ふにを
いかられいちめんをわすれたん
ちからをもちゐるに今一陣の
ともしく旅とある戦場にし
てそれより三木和らかの
祈壇をならべたる天をまもんと
ゆくもてになるうへるめの玉
徒誅戮するひかしやくらん
貴みんたちかまさんとうちま
ふそむかんとはく曽祖父前
の陸奥守ぞられあそ外を
宗廟の氏族にさ鳴くして
名を八幡太郎と号せられ

これこそ名の門葉なるこその武
きやうせんといふ名の義仲
その後胤としてかうを色をとらく
ふ事く年久し此大功
を起こすはそれとへは嬰児の
貝をもつて巨海を量りて
蟷螂の斧をいからして隆
車にむかふかことしとり
さて君れ為めにおのためには是
をおこそ身れ為め家れため
にして是を起ぞさる縁さし
かくちとんしせいにあり為
乃もし給ふるやよ[illegible]こりさ

うちや続く経ゆうくいめうきん
いそく久き、きんちうそ合
結ちと一時ふきんやしおこを
四方ふきりそ紀行へ志りた
それりちうんさ望ゐ孚よりあ
ひかうきんか護とかたへくを
むきりの武陽おとをせしめ後へ
寿永二年五月十一日源の義仲
敬白と書くうりくめいり奉納
かめぬ人すそかりうれ